# プレスリリース 2022 Site δ Architecture Firminy-Vert Saint-Étienne Métropole

フィルミニのル・コルビュジエ建築群。なんとも奇妙で独特な姿に圧倒されます。この規格外とも言えるカルティエ(地区)は、形、光、自然、機能性を熱心に追求した一人の建築家のヴィジョンによって生まれました。2006年サン・ピエール教会の完成後、2008年には一般公開され、欧州でもユニークなこの建築群はその名を広く知られるようになりました。2016年に文化会館がその他16のル・コルビュジエ建築作品とともに「近代建築運動への顕著な貢献」としてユネスコの世界文化遺産に登録されると、その周知は一層広がりました。小学校から大学まであらゆる年齢層の学生、また建築やデザインに興味のある方から愛好家まで、ル・コルビュジエ建築群では毎年約2万人の訪問者をお迎えしております。

### 知ってもらう鍵は感動

ル・コルビュジェ建築群では、地元の家族連れから通りすがりの旅行者まで、より幅広い層のお客様のお越しをお待ちしております。よりよく深く知っていただく鍵となるのは感動です。驚きや感動、喜びといった感情を呼び起こすことで、訪れた経験が一変するような体験をご用意しています。コンクリート造のファサード。その中へ足を踏み入れ、自然に向かって大きく開かれた部屋の間取りや光の案配、独創的で斬新な創意工夫とイノベーションを発見してください。

### オーダーメイドの見学コース

お客様に想像の世界を広げて一緒に発見して頂くために、ル・コルビュジエ建築群ではこれまでにない新しい見学コースやイベント、ご案内方法を検討しています。ル・コルビュジエの世界に捧げる最適な旅のデスティネーションを目指しています。

## 目次

<b>感じる世界の発見へ</b> /感覚体験に身をゆだねる /今の生活様式に光をあてる	04	競技場:健康な体に宿る 健やかな精神	14
見学:ル・コルビュジエ 建築群 の一部となる	06	/ 鉄筋コンクリートによる偉業 / 生きた文化遺産	
/ 様々なイベントによって活気溢れる建築		アンドレ・ヴォジャンスキーの プール:コンクリートとガラス	15
1ートピア都市計画の起源 /体と魂と精神が必要とするものに応える	07	/ 光に向かって / 今なお現役のプール	
文化会館:芸術に役立つ建築 /ーつの施設という枠を超え、一つのコンセプト /何か音楽的なもの /刻まれるデザイン /活気溢れる場所	08	フィルミニ・ヴェール: 光の中 に自然とともに生きる町づくり /新しい地区 /近代的なプラン /三要素「太陽、空間、緑」 /大賞受賞	16
1 ニテ・ダビタシオン: 住むための機械」 /5つ目、最後の作品 /ピロティーの上に建つ20階建 /太陽の光を取り込む	11	<b>建築家ル・コルビュジエ</b> /建築家 にとどまらない /遺産と近代性のはざまで / 重要データ	17
/屋上につくられた劇場 /現在の生活様式に合わせる /すべてが備え付けられたモデルルーム  フィルミニ・ヴェールの ナン・ピエール教会:天啓	12	サン・テティエンヌ都市圏  / サン・テティエンヌっ子の遺伝子  / イノベーションとデザインに賭ける / サン・テティエンヌ近・現代美術館 / 芸術産業博物館	18
/ 皆で作り上げた作品 / 円錐 / 光がいっぱい		/シテ・デュ・デザイン /サン・テティエンヌ都市圏 <b>写真提供</b>	20
		参考文献 / インターネット / 画像について	22

ル・コルビュジエ建築群フィルミニ・ヴェール

プレスリリース

/参考図書

- 3

建築やデザイン、ル・コルビュジエの作品をよく知ってい る方も知らない方も、すべての方に新しい体験が待って います。必要なのはすべての先入観を捨てて、ただ身を任 せてル・コルビュジェの建築群に耳を傾けるだけです。 空間や建物を感じることで発見してください。

### /感覚体験に身をゆだねる

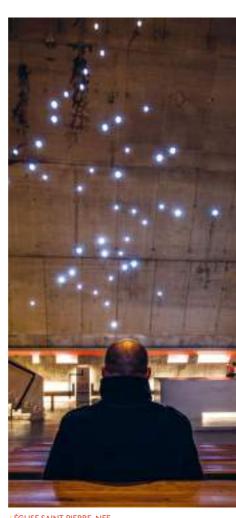
Rich事務所と芸術家ブルーノ・ペイナド による2020年末に行われたユニテ・ダビ タシオンのライトアップは、ル・コルビュ ジエ建築群がおすすめする新しい見学 スタイルを反映しています。学芸員でも ある館長ジェラルディン・ダブリジョンが 説明するように「感じたり、体験したりす る感覚的なアプローチによって、心と体 でこの建築的空間を発見しよう」という ご提案です。

オリオン座を通してサン・ピエール教会 の中に差し込む朝の光、ユニテ・ダビタ シオンの驚くべき眺望、ファサードの開 口部に描かれる音楽的リズムなど。見 学を通して、建築や作品、それらがその 時代にどんな役割を担ったかを発見し ようと、先見的なものを捨てることがで きる好奇心の強い方には、思いがけな い驚きが待っているはずです。

### /今の生活様式に光をあてる

フィルミニ・ヴェール地区の構想を担当 した当時の建築家・都市計画家チーム は、その計画の中心に人間をおきまし た。そこでは、住民が快適な生活を送り、 共用の施設や散歩ができる美しいスペ ースを利用し、スポーツや文化的な活動 を行い、学校へ通い、生き生きとした生 活を送ることができるのです。

当時の都市計画や建築における進んだ 新しい考えは、すべて生活環境の改善 に向けられていました。今どう生きるか を問い、日々の生活に光を当て、明日よ り良い生活をするための展望を開いた のです。



ÉGLISE SAINT-PIERRE, NEF



/ ÉGLISE SAINT-PIERRE. NEF

「アンガジュモン、つまりどのような 役割を果たそうとしたのか、がここで はとても重要なのです。当時我々はあ らゆる物事の方向を変えようという 時代の真っ只中にありました。ル・コ ルビュジエ は建築によってその役割 を果たそうとしたのです。彼は大胆で 想像的な価値観を持ち込み、体と精 神の重要性を主張しました。」

ジェラルディン・ダブリジョン ル・コルビュジエ 建築群館長・学芸員

# 来場者について

/ 毎年約2万人の来場者

/ ロワール県から40%、オーヴェルニュ =ローヌ=アルプ地域圏から62%。

/ イル=ド=フランス地域圏から6%。

/その他のフランス地域圏は12%。

/海外からの来場者は約20%で、その うち4%が日本と中国、6%がヨーロッ パから。

時間をかけてル・コルビュジエ建築群を感じ、その形や色 に慣れてください。きっと理解が深まるはずです。一年を 通して館内ガイドが、フィルミニ・ヴェールの都市計画や モダニズム建築を象徴するル・コルビュジエ 建築群の発 見をお手伝いさせて頂きます。文化会館と教会、ユニテ・ ダビタシオン(各ツアー所要1時間半)、特別展などすべ ての方にご参加いただける定期的なガイドツアーをご用 意しております。

ガイドツアーのスケジュールやオンラインチケット情報:

sitelecorbusier.com/billetterie-en-ligne/

### / 様々なイベントによって活 気溢れる建築

芸術と建築を楽しみながら参加形式で 次々と発見して行く、そんな充実した内 容のバラエティに富んだ、気軽に参加い ただけるプログラムをご用意しておりま す。一年を通し、特別展、コンサート(クラ ッシックおよび現代音楽、歌など)、会議 や研修などとの組み合わせも可能です。 子供や若者対象のイベントもあり、家族 でお越しいただけます。

最新ニュース sitelecorbusier.com/actualites



すべては1953年、ウジェーヌ・クロディウス=プティがフ ィルミニ市長に就任したことから始まります。元復興・都 市計画大臣だった市長は、市民の生活条件を改善するた め、根底から町を変革しようという大きなプロジェクトを 携えていました。都市計画家シャルル・デルファント率い る建築家チームは、新しい住宅を建てるだけでなく、理想 郷をかたちにしたような近代的なカルティエ(地区)をつ くります。フィルミニ・ヴェール地区はアテネ憲章(1933) 年)の原則に基づき、市長クロディウス=プティ曰く「自然 を取り戻し、太陽と光の中に築かれた都市」として、新し い生活環境を市民に提供したのです。

### / 体と魂と精神が必要とする ものに応える

1950年代半ば、ル・コルビュジエ はこの 新しいカルティエの中心に文化会館、競 技場、ユニテ・ダビタシオン、教会、さらに プールを加えた建設計画を描きます。こ の計画は体と精神が普遍的に必要とす るものに応えるものでした。その前衛的 で革新的な整備計画によって、フィルミ 二の建築群はヨーロッパにおける20世 紀建築の参照とされました。そのコンセ プトは、今日なお我々の現代の生活様 式に強く訴えかけてきます。

# 追加情報

/ フィルミニ・ヴェール地区は1961年都 市計画大賞を受賞

/ 2016年、文化会館はその他16のル・コ ルビュジエ 建築作品とともに「近代建 築運動への顕著な貢献」としてユネスコ の世界遺産リストに登録されました

/ 2018年から**オーヴェルニュ=ローヌ**= アルプ地域圏を象徴する観光地に指定 されています

/ 2020年から欧州評議会が認定する文 化的ルートの一つです



/ VUE SUR L'ÉGLISE SAINT-PIERRE

広々として、光に溢れ、機能的…。文化会館はル・コルビュジエがフィルミニで最初に建てた建物であり、唯一彼の 在命中に完成しました。

### / 一つの施設という枠を超 え、一つのコンセプト

1965年5月21日、ル・コルビュジエ出席のもと竣工を迎えた文化会館は、1966年「文化と青少年の家」という名称でオープンしました。この名称は、フランスにおける大衆教育の歴史的な運動、またアンドレ・マルローが掲げた文化の地方分散化の過程を物語ります。

### /何か音楽的なもの

湾曲した不思議な形を持つ屋根が空に向かってそびえ立つ姿は、遠くからでも目につきます。建物は、西側すぐ下に位置する競技場の方に傾斜していて、その内側ではこの傾斜を利用して観客席が設置されています。カラフルな垂直材とガラス張りの開口部が交互に織りなす東西のファサードは、音楽的なものによっています。このアイデアがル・コルビュジエとヤニス・クセナキス、つまり建築家と作曲家のコラボレーションによって生まれたのも納得です。

### / 刻まれるデザイン

建物内部はどれもバランスがとれていて機能的です。ル・コルビュジエの建物が、デザイナーのピエール・ガーリッシュの家具により一層豊かなものになっています。上演ホール、事務所、オーディト

リアム、工作室、バー併設ホワイエには、モデュロールを使って作られた家具が設置されています。モデュロールとは「モジュール(建築における基準寸法)」と「黄金比」を合わせた言葉で、建築やデザインを人間のプロポーションに適合させるためにル・コルビュジエが作りだした尺度の単位です。棚、肘掛け椅子、テーブル、照明器具がいつでもご覧いただけます。

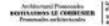
### / 活気溢れる場所

2009年と2013年の修復工事を経て、文化会館は今なお当初のプログラム通り、演劇鑑賞や芸術創造の場所であり続けています。アーティストの発表支援の場、ワークショップの実施、常設展、ル・コルビュジエ建築群の入口受付などに利用されています。

## 追加情報

- / 1961-1965年建設
- / 全長112m
- / 1984年歴史的文化財に指定
- / 2016年7月17日、その他16のル・コルビュジエ建築作品とともに近代建築のシンボルとしてユネスコの文化遺産に登録





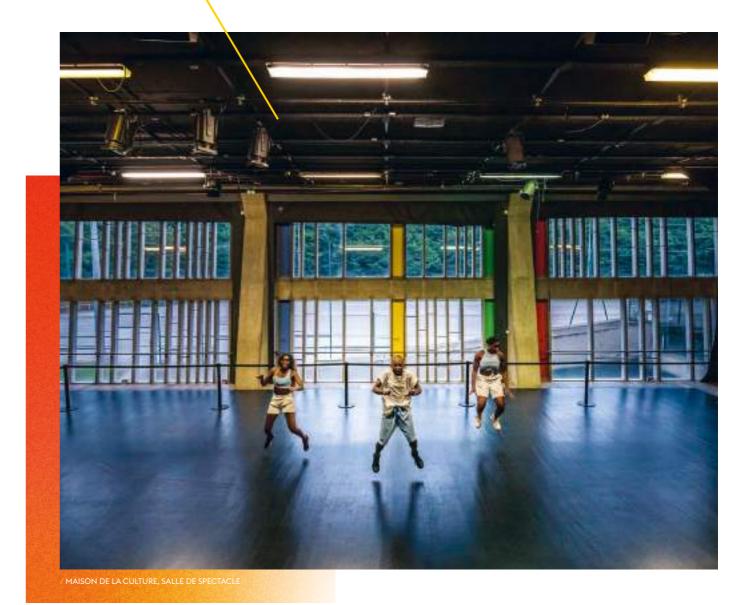


く音楽的旋律のリズ ムに震える。**/** 

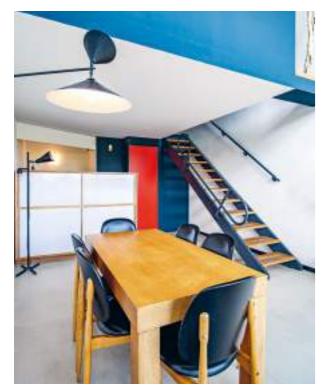
∖文化会館の窓が描



/ MAISON DE LA CULTURE, FAÇADE EXTÉRIEURE







/ UNITÉ D'HABITATION, APPARTEMENT-TÉMOIN

\ユニテ・ダビタシオンの屋上庭園に上り、 目がくらむ眺めにはっ とする。 20階建の高さでフィルミニ・ヴェール地区を見下ろしそび え立つユニテ・ダビタシオン。どっしりとしながら軽やか な、ピロティーの上に建つこのコンクリート造の建物は「 垂直の田園都市」のモデルとして構想されました。

### /5つ目、最後の作品

「住宅は住むための機械である」、「肘掛け椅子が座るための機械である」ように(1923年『建築をめざして』より)。こうしてル・コルビュジエはユニテ・ダビタシオンを思いついたのです。世界には5つのユニテ・ダビタシオンが建てられましたが(マルセイユ、ルゼ・レ・ナント、ブリエ・アン・フォレ、ベルリン、フィルミニはその最後の作品です。フィルミニ・ヴェールの都市計画の第2次案としてシャルル・デルファントが構想し、当初3棟の建設が予定されていましたが、すべてが完成することはありませんでした。

### / ピロティーの上に建つ20 階建

1965年5月21日、ル・コルビュジエによってユニテ・ダビタシオンの起工式が行われました。地面を解放するピロティ、自由なファサード、ブリーズ・ソレイユ、屋上庭園、そこには彼が提唱する基本的な要素がいくつも使われています。ル・コルビュジエの死後、アンドレ・ヴォジャンスキーによって完成されました。

### / 太陽の光を取り込む

自然に向かって大きく開いたガラス窓を東西に配し、アパートの中にはめいっぱいの太陽光が取り入れられています。長さ130m、幅21m、高さ56mの建物にはモデュロールが用いられています。「内側の通り(rue)」と呼ばれる7つの廊下がワンルームから5LDKまである414戸のアパートを繋いでいます。

### / 屋上につくられた劇場

ル・コルビュジエはこの建物を一つのヴィラージュ(村)と考えました。18階と19階には3,000㎡の幼稚園があり20階の屋上には劇場があります。現在も当時の家具が残る幼稚園は30年の活動の後

1998年に閉鎖されました。フィルミニを含め全部で3つ存在するユニテ・ダビタシオン内の幼稚園ですが、その中でもっとも広く、おそらく完成度も高いといわれています。

### / 現在の生活様式に合わせる

アパートの北側3分の1は20年間閉鎖の後、修復と改修を経て分譲マンションとして再び利用されることとなりました。その一部は2つのアパートを1つにするなどして今の需要に応えています。南側は今もなおHLM(低家賃住宅)としてサン・テティエンヌ都市圏公社によって管理されています。

### / すべてが備え付けられたモ デルルーム

最初プロトタイプ用に使われたモデルルームは、ベッド、机、椅子、テーブル、「パス・プラ」と言われるキッチンとリビングを隔てる棚など、ピエール・ガリッシュ考案のデザイン家具で飾られています。現在見学の一部となっているこの部屋は当時、住むことを検討している人々に、この光溢れる空間でどのような生活が待っているかを想像してもらうためにありました。

### 追加情報

- / 1965-1967建設
- **/ 当初は居住者1500人を予定**、現在は 約1000人程度
- / ファサード、屋上庭園、幼稚園が1993 年に歴史的文化財に指定
- **/ モデルルームと入口ホール**が2010年 に歴史的文化財に指定
- / **屋上テラスに設置された作品による 常設の光の演出は、**月の満ち欠けにより変化していきます

教会の一部は小教区所属の信者に利用されています。 60年代前半、小教区委員会はフィルミニ・ヴェール地区 のための新しい教会の建設を依頼しました。ジョゼ・ウー ブルリとルイ・ミケルをアシスタントに、ル・コルビュジエ は1961年には最初の案を構想、1965年に亡くなるまで 教会の新しい設計を作り続けました。ル・コルビュジエが 最後に残した草案をジョゼ・ウーブルリが作品として仕上 げました。

### / 皆で作り上げた作品

1970年に起工式が行われ、1973年にス タートした工事ですが1978年には中断 されてしまいます。2004年にサン・テティ エンヌ都市圏を発注者として工事が再 開され、2006年11月に当初の案に従い ジョゼ・ウーブルリの指揮のもと完成し ました。アリヌ・ドゥヴェルジェ、イヴ・ペ レ、ロマン・シャザロン、歴史的文化財主 任建築家ジャンフランソワ・グランジュ・ シャヴァニも一緒でした。

### / 円錐

正方形の基礎土台に、てっぺんが切り取 られた円錐台が乗った形をした教会は 高さ33mに達します。コンクリート造の 建物内側の上部には外陣と礼拝堂があ り、下部の比較的開口部の多い部分は 当初主任司祭の住まいや小教区の活動 に利用される予定でしたが、現在は展示 スペースとなっています。

### / 光がいっぱい

東ファサードのオリオン座に配した穴々 を通って入り込む朝の光が幻想的な雰 囲気を生み出します。外陣には3つの「 光の大砲」(ル・コルビュジエの特徴的 な建築手法)によって光が注がれます。

### 追加情報

/ ロンシャンの礼拝堂(1955)、ラ・トゥー レット修道院(1959)に続き、サン・ピエ ール教会はル・コルビュジエによる3 つ目の教会建築です

/ル・コルビュジエ の死から40年 後、2006年11月25日にフィルミニのサ ン・ピエール教会は完成しました

/ 2012年に歴史的文化財に登録、また 「20世紀遺産」にも指定されています

∖サン・ピエール教会 の中、33メートルの高 さまで渦巻き響くこだ まに驚く。



ÉGLISE SAINT-PIERRE, NEF



ル・コルビュジエ は、体の鍛錬は精神の鍛錬と同じくらい 不可欠なものと考えていました。しかし彼は建築人生を 通して、スポーツ施設はバグダッド(イラク)の体育館とフ ィルミニの市立競技場の2つしか残していません。フィル ミニ の競技場はフランスで唯一歴史的文化財に指定さ れた競技場です。

### / バトンを引き継ぐ

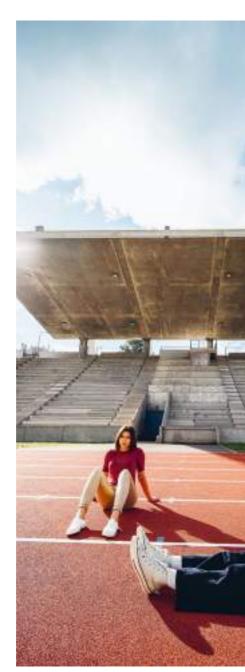
1955年、市長クロディウス=プティは文 化会館と一体となった市立競技場の建 設をル・コルビュジエに依頼しました。 目指す町にみあうだけの壮大な規模を 持つ施設を作りたいと考えていました。 工事はル・コルビュジエ の死後1966か ら1969年にかけて行われ、アンドレ・ヴ ォジャンスキーによって建設されました。

### / 鉄筋コンクリートによる 偉業

ル・コルビュジエの設計に基づき、ラー ズ砂岩 採掘場跡の凹地にスポーツ施設 は建設されました。「観客の大通り」と呼 ばれる傾斜路によって、上から観客席に アクセスすることになります。古代円形 闘技場に着想を得ており、斜面の裏側、 つまり観客席の下は更衣室となってい ます。

### /生きた文化遺産

競技場は今なお多くの市民やスポーツ クラブによって利用される現役の文化遺 産です。



/ LE STADE

1958年、ル・コルビュジエは既にプールの立地について は考えていましたが、設計する時間がありませんでした。 ル・コルビュジエが文化会館や競技場で用いた形や建材 を取り入れつつ、このプロジェクトを担当したのはアンド レ・ヴォジャンスキーです。

### / 光に向かって

建物のコンセプトの中心となるのはガラ スとコンクリート。南、東、西側のガラス 張りのファサードはコンク 追加調査リー トのフレームによってリズミカルに仕上 げられています。

### / 今なお現役のプール

1969年に利用開始、1971年3月5日 からは公式に一般にも公開されまし た。2005年には歴史的文化財リストに 記載されました。2004年から2006年に かけて修復され現在もなお利用されて います。

### 追加情報

/ アンドレ・ヴォジャンスキーはサン・テテ ィエンヌにある若年労働者寮(クレール ヴィーヴル・ヴォジャンスキー) も1962年 に設計しています。サン・テティエンヌ観 光局およびシテ・デュ・デザインが提供 する「デザインコース」の見学箇所にも なっています。

彼が日本で建てた作品に宝塚造形芸術 大学があります。



/ PISCINE MUNICIPALE ANDRÉ WOGENSCKY

かつての工業都市フィルミニ。19世紀から20世紀にかけて、鉄鋼業や金属業の発展により人口が増加します。フィルミニ・ヴェールという新地区のアイデアは、「栄光の30年」というフランスにおける高度経済成長期に、当時の市長ウジェーヌ・クロディウス=プティの中で生まれました。

### /新しい地区

1953年、市長クロディウス=プティによる社会、経済、住民に関する総まとめの結果、住居不足および衛生面・快適さの欠如が浮き彫りとなります。そこで彼は中心街の修復と新しい地区「フィルミニ・ヴェール」の開発を決定。

### / 近代的なプラン

市長はこの開発の実現を、シャルル・デルファント、ジャン・クリング、アンドレ・シヴ、マルセル・ルーら建築家と都市計画家のチームに託します。その産業活動から「黒いフィルミニ」と言われた当時の町のイメージを変えるべく、新しい地区の開発はル・コルビュジエの考えに基づくアテネ憲章(1933年採択、1941年発行)の理念に沿うものとしたのです。

### /三要素「太陽、空間、緑」

つまり人間の4つの基本機能〜住む、働く、余暇、交通〜に応え、人々が「太陽、空間、緑」があふれる場所でのびのびと生活できるような都市計画の推進です。この精神にのっとりアテネ憲章では緑地の割合を大きく占めるように考えられているのです。

### / 大賞受賞

1957年以降、1070戸の公営住宅(1965年建設開始のユニテ・ダビタシオンは含まない)が新たに建設され、学校、コミュニティセンターやショッピングセンターのような公共施設も作られました。歩道から様々な幹線道路まで、分類された交通路により住民が移動できるようになっていますこの新地区は1961年に都市計画大賞を獲得、現在も景観遺産として保護されています。



/ QUARTIER DE FIRMINY-VERT

### / 建築家... にとどまらない

1887年、スイスのラ・ショー=ド=フォンに生まれたシャルル=エドワード・ジャンヌレは、通称ル・コルビュジエとして知られ建築家であると同時に都市計画家、作家、理論家、デザイナー、画家、彫刻家でもありました。世界的に有名なこの建築家は第1次世界大戦後のモダン建築の創始者の一人と今日考えられています。

### / 遺産と近代性のはざまで

約60年に及ぶキャリアを通して多くの旅を重ねたル・コルビュジエは、歴史によって作られた遺産と近代性を常に混在させてきました。彼の建築作品は世界4大陸11カ国に見ることができます。フィルミニの文化会館を含むその一部が2016年「近代建築運動への顕著な貢献」としてユネスコの世界遺産に指定されています。

# ル・コルビュジェ 5要点

/ **大勢の中でも見分けられるシ** ルエット、太縁丸メガネ

/ そして特に、何代にもわたり建築家達をインスパイアした**夢想** 家

/ **にも関わらずほぼ独学のクリエーター、**そのうえ建築家の免状は一度も取得していない

/ 機能性と快適さ、そして外への 開きを調和させた建築の支持者 であり、かつてないほど今日的意 義をもつ

/ 間の身体プロポーションに基づく寸法体系: **モデュロールの** 開発者

# 海際ツ 一リルビュジェ

# 重要データ

**1887** / 10月6日、ラ·ショー=ド=フォン(スイス) に生まれる

1908 — 1909 / ペレ兄弟のもとで研修(鉄筋コンクリート技術の研究)

1923 / 近代建築のバイブル『建築をめざして』発行

1931 / ポワシーのサヴォワ邸完成

1945 / モデュロール開発

1952 / マルセイユのユニテ・ダビタシオン 完成

**1955** / 年―ロンシャン礼拝堂(オート=ソーヌ県)完成

**1960** / ラ・トゥーレット修道院(ローヌ県)完成

**1955 - 1965** / パンジャブ州都 (インド) チャンディーガルの 建設

1961 - 1965 / フィルミニの文化会館建設

**1965** / 5月21日文化会館の竣工式およびユニテ・ダビタシオンの起工式。これがル・コルビュジエ最後のフィルミニ訪問となる

**1965** / 8月27日ロックブリュヌ・カップ・マルタン(アルプ・マリティム県) にて死去

1966 - 1969 / フィルミニの競技場建設

1973 - 2006 / ジョゼ・ウーブルリ指揮による2期に渡るサン・ピエール教会の建設工事

歴史ある産業都市としてしられるサン・テティエンヌ都市 圏では、ノウハウやクリエイティブな精神をイノベーション やデザインに活かすことによって、新たな価値づけをして います。

### / サン・テティエンヌっ子の遺 伝子

サン・テティエンヌではいたるところに デザインが存在します。お店や学校や研 究機関などによる大企画のものから、 様々な団体や市民によるものまで、街の あちこちの地区で目にすることができま す。今やデザインはサン・テティエンヌの DNAに刻まれています。

### / イノベーションとデザイン に賭ける

この街ではすべてがデザインに繋がります。例えばサン・テティエンヌの旧兵器工場跡に建てられたシテ・デュ・デザイン、公共スペースを用いたデザインの実験的利用、デザイナーが考案したトラム、デザインによって促進される経済発展やシャトークルーのビジネス街の整備など。

サン・テティエンヌはフランスで唯一「ユネスコ創造都市 (デザイン部門)」に輝きました。

# サン・テティエンヌ国際デザイン ビエンナーレ

1998年サン・テティエンヌ地方高等芸術学校によって第1回が開催された国際ビエンナーレ。特殊なテーマに沿った数々のイノベーションにスポットライトが当てられ、毎回が一つのイベントといえます。例えば2015年は「美しいという感覚」、2017年は「労働契約、変わりゆく労働」2019年は「私、あなた、私達、合意点をデザインする」がそのテーマでした。環境保護、新しい用途、デジタル化による変化など。現代における大きな難題への問題提起、それと同じだけのテーマが存在します。2019年には1万人の業界関係者、23万人の一般来場者が参加。

第12回は2022年4月6日から7月31日にて開催されます。ル・コルビュジエ建築群も展示やイベントなどを通して、ビエンナーレの会場の一部となります。

これまでとは違うかたちのサン・テティエンヌ都市圏の発見です。 ぶらぶらと街の通りを歩いたり、街を飛び出したり、ローカルフー ドに舌鼓を打ったりしながら、新しい視点で周りに目を向けてくだ さい。ここは常に感じる体験に満ち溢れています。

### / サン・テティエンヌ近・現代美術館

ル・コルビュジェ、シャルロット・ペリアン、ピエール・ジャンヌレがデザインした長椅子B306で小休 止。



/ シテ・デュ・デザイン では、年間を通して開催される展示や講義、会議やミーティングを通して、あらゆる角度からデザインを発見していただけます。



ゲン・テティエンヌ都市圏内にて、感じる体験をして頂ける11コースの「グランド・ツアー」をご用意しています。

/ 芸術産業博物館では、自転車発明における ゴティエ兄弟の創意工夫をご覧いただけます。



# サン・テティエンヌ、枠 を超えたデスティネー ション

フランスで唯一ユネスコの創造都市(デザイン分野)に認定されるサン・テティエンヌならではの体験、また世界に向けた発信の仕方があります。サン・テティエンヌ都市圏と観光局は「枠を超える」というスローガンのもと、訪れる皆様に踏みならされた道を外れ、エスプリ(精神)をオープンにしていただく提案をしています。「枠を超えるサン・テティエンヌ」の中の「デザインとクリエイティブのぶらぶら散歩」や「文化と発見でひとまわり」というプログラムの中で、フィルミニのル・コルビュジェ建築群はインスピレーションを与えてくれる、はずせない目的地として紹介されています。

https://www.saint-etienne-hors-cadre.fr/

- 1/ Site Le Corbusier / Église Saint-Pierre / Nef / Saint-Étienne Tourisme ā Congrès / DisyBeltran / ⊚ F.L.C/ADAGP / Conception, Le Corbusier architecte, José Oubrerie assistant (1960-65). Réalisation, José Oubrerie architecte (1970-2006)
- 2 / Site Le Corbusier / Église Saint-Pierre / Nef / Arnaud Frich / © F.L.C/ADAGP / Conception, Le Corbusier architecte, José Oubrerie assistant (1960-65). Réalisation, José Oubrerie architecte (1970-2006)
- 3 / Site Le Corbusier / Église Saint-Pierre / Nef / Arnaud Frich / © F.L.C/ADAGP / Conception, Le Corbusier architecte, José Oubrerie assistant (1960-65). Réalisation, José Oubrerie architecte (1970-2006)
- 4 / Site Le Corbusier / Unité d'Habitation / Façade extérieure / Arnaud Frich / © F.L.C/ADAGP
- 5 / Site Le Corbusier / Vue sur l'Église Saint-Pierre / Olivier Ramonteu / © F.L.C/ADAGP / Conception, Le Corbusier architecte, José Oubrerie assistant (1960-65). Réalisation, José Oubrerie architecte (1970-2006)
- 6 / Site Le Corbusier / Maison de la Culture / Façade extérieure / Arnaud Frich / © F.L.C/ADAGP
- 7 / Site Le Corbusier / Maison de la Culture / Salle de spectacle / Yohann Merlevede / © F.L.C/ADAGP
- 8 / Site Le Corbusier / Unité d'Habitation / Toit-terrasse / Olivier Ramonteu / © F.L.C/ADAGP
- **9 / Site Le Corbusier / Unité d'Habitation / Appartementtémoin / Arnaud Frich / © F.L.C/ADAGP**
- IO / Site Le Corbusier / Église Saint-Pierre / Nef / Arnaud Frich / © F.L.C/ADAGP / Conception, Le Corbusier architecte, José Oubrerie assistant (1960-65). Réalisation, José Oubrerie architecte (1970-2006)
- II / Site Le Corbusier / Église Saint-Pierre / Arnaud Frich / © F.L.C/ADAGP / Conception, Le Corbusier architecte, José Oubrerie assistant (1960-65). Réalisation, José Oubrerie architecte (1970-2006)
- 12 / Site Le Corbusier / Stade / Olivier Ramonteu /
  © F.L.C/ADAGP
- 13 / Site Le Corbusier / Piscine municipale André Wogenscky / Jean-Jacques Gelbart / © F.L.C/ADAGP
- 14 / Site Le Corbusier / Quartier de Firminy-Vert / Arnaud Frich / © F.L.C/ADAGP
- 15 / MAMC de Saint-Étienne Métropole / Saint-Étienne Tourisme et Congrès / Buchowski + Vagabonde
- 16 / Musée d'Art et d'Industrie / Saint-Étienne Tourisme et Congrès / Buchowski + Vagabonde
- 17 / Cité du Design / Pierre Grasset
- 18 / Site Le Corbusier / Église Saint-Pierre / Yohann Merlevede / © F.L.C/ADAGP / Conception, Le Corbusier architecte, José Oubrerie assistant (1960-65). Réalisation, José Oubrerie architecte (1970-2006)













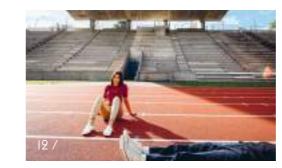
























### / インターネット

### www.sitelecorbusier.com

ル・コルビュジエ建築群のHP。ル・コルビュジエやフィルミニの町、近代建築、モダニズム建築、フィルミニ・ヴェール地区の建築についての情報の宝庫。利用案内などの一般情報、オンラインチケット、イベント等などの情報も(英・仏語)

### www.saint-etienne-hors-cadre.fr

ちょっと立ち寄り?日常を忘れて1日旅?それならサン・テティエンヌ都市圏観光局のこのアドレスが最適です。観光、移動、宿泊、食事について全情報あり。その道のプロからのアドヴァイスやプランも必見です。(英・仏語)

### www.stephanois-hors-cadre.fr

サン・テティエンヌ都市圏のHP。地域とその豊かさを発見できます。 (仏語)

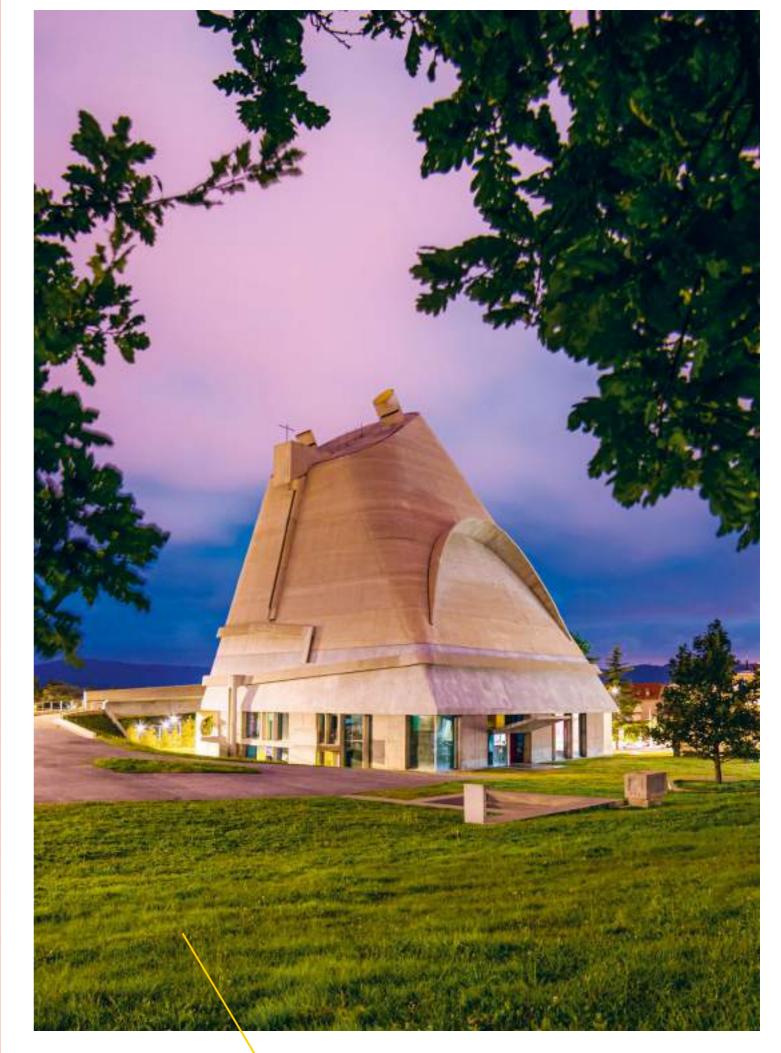
# /画像ついて

プレス資料に利用しているすべての写真等の画像がご利用いただけます。以下にご連絡ください。

Floriane Font (f.font@saint-etiennetourisme.com)

# 参考図書

- Sylvain PERRET, Jérôme BERNARD-ABBOU, Aventure urbaine, Le Corbusier à Firminy-Vert, EMCC, 2020
- Gilles RAGOT, Le Corbusier à Firminy-Vert, Éditions du Patrimoine, 2011
- Guillemette MOREL-JOURNEL, Le Corbusier: Construire la vie moderne, Éditions du Patrimoine, collection «Carnets d'architecte», 2015.
- Jean-Louis COHEN, Le Corbusier, Tout l'œuvre construit, Flammarion, 2018



# LE CORBUSIER

Site & Architecture Firminy-Vert Saint-Étienne Métropole

### 問合せ先

### Floriane Font

f.font@saint-etiennetourisme.com +33 (O)4 77 6I 5I IO

+33 (O)7 48 IO 97 O4

**#** ○ Þ

sennse

Une expérience ] Saint-Étienne Hors Cadre [







